

## 国内制度小委員会の今後の検討方針について（案）

### 1. 背景

昨年 12 月にとりまとめられた中央環境審議会「地球温暖化防止対策の在り方の検討に係る小委員会」報告書では、「中央環境審議会としては、京都議定書の締結について国会で承認を得るためにはどのような国内制度が必要となるのかという観点から、[ ポリシーミックスによる政策パッケージ、 モニタリング等の基盤メカニズムの構築、 6 %削減目標の達成シナリオについて、 ]引き続き鋭意検討が必要である」としている。

これらの事項を引き続き検討するため、去る 2 月 16 日に開催された中央環境審議会地球環境部会の第 1 回会合において、地球環境部会の下に、「国内制度小委員会」及び「目標達成シナリオ小委員会」の 2 つの小委員会を設置することが了承された。このうち、「国内制度小委員会」においては、ポリシーミックスによる政策パッケージ及び モニタリング等の基盤メカニズム構築の二点を中心に検討を行い、具体的な制度案をとりまとめ、地球環境部会に報告することとされている。

### 2. 当面の検討方針

我が国政府は、2002 年までの京都議定書の発効を目指して国際交渉を進めているが、今後の国際交渉において、我が国の発言を他の先進国や途上国に対してより説得力を持つものとするためにも、また、我が国自らも 2002 年までに議定書の締結について国会で承認を得るためにも、議定書の 6 %削減目標を確実に達成するために必要な国内制度の構築・整備を進めていくことが不可欠である。

このため、国内制度小委員会では、従来の検討結果も踏まえつつ、部会です承された事項に沿って、以下の基本的方針に基づき審議を進めていくこととする。

## 2.1 ポリシーミックスによる政策パッケージについて

昨年 12 月にとりまとめられた中央環境審議会「地球温暖化防止対策の在り方の検討に係る小委員会」報告書では、国内制度のあり方について、具体的な議論を行うための出発点として、主として排出量管理の确实性を高める観点から五つのパッケージ・モデルを形成したところである。この五つのモデルは理念的なモデルであり、その具体化に当たってはより詳細な検討が必要であることから、国内制度小委員会においては、五つのモデルを念頭に置きつつ、産業、民生、運輸等の各部門別に、これまでの施策の評価も踏まえ、国内制度の在り方について具体的に検討を行い、ポリシーミックスによる政策パッケージの具体的な制度案を提示することとする。

## 2.2 京都メカニズム等の活用の在り方について

国内制度の設計に当たっては、京都メカニズム及び吸収源を活用するための制度を適切に位置づける必要があるため、国際交渉の進捗状況も踏まえつつ、京都メカニズム等の活用の在り方の基本的な考え方についてもあらかじめ検討を進めることとする。

## 2.3 基盤メカニズムの具体化について

ポリシーミックスによる政策パッケージを適切に推進していくため、モニタリング等の基盤メカニズムの整備、構築に向けた具体的な制度設計を引き続き行う。

### 3 今後の検討スケジュールについて

第2回：4月12日（木）14：00～18：00

- 民生部門における取組の現状評価と今後の対策の在り方について
- 非エネルギー起源の二酸化炭素並びに、メタン及び一酸化二窒素の排出抑制対策の現状評価と今後の対策の在り方について

第3回：5月11日（金）15：00～18：00

- 運輸部門における取組の現状評価と今後の対策の在り方について
- HFC等3ガス部門に係る取組の現状評価と今後の対策の在り方について

第4回：5月25日（金）14：30～18：00

- 産業部門における取組の現状評価と今後の対策の在り方について
- エネルギー転換部門における取組の現状評価と今後の対策の在り方について

第5回：6月8日（金）14：30～18：00

- 京都メカニズム等の活用の在り方の基本的な考え方について
- モニタリング等の基盤メカニズムの在り方について

第6回：6月22日（金）14：30～18：00 / 第7回

- 未定



本年夏頃 地球環境部会への中間報告

## 地球環境部会の今後の検討課題及び検討方針

### 1. 背景

我が国政府は、2002年までの京都議定書の発効を目指して国際交渉を進めているが、今後の国際交渉において、我が国の発言を他の先進国や途上国に対してより説得力を持つものとするためにも、また、我が国自らも2002年までに議定書の締結について国会で承認を得るためにも、議定書の6%削減目標を確実に達成するために必要な国内制度の構築・整備を進めていくことが不可欠である。

昨年12月にとりまとめられた中央環境審議会「地球温暖化防止対策の在り方の検討に係る小委員会」報告書では、「中央環境審議会としては、京都議定書の締結について国会で承認を得るためにはどのような国内制度が必要となるのかという観点から、( ポリシーミックスによる政策パッケージ、 モニタリング等の基盤メカニズムの構築、 6%削減目標の達成シナリオ ) について、引き続き鋭意検討が必要である」としている。

### 2. 小委員会の設置及び検討方針

このような背景を踏まえ、上記の3つの課題を検討するに当たっては、地球環境部会の下に、以下の2つの小委員会を設置して、それぞれの項目について具体的かつ詳細に検討することが必要である。

#### (1) 目標達成シナリオ小委員会

削減目標の達成シナリオ策定のための技術的検討を行い、各種対策の削減ポテンシャル等を詳細に分析し、その結果を地球環境部会に報告すること。

#### (2) 国内制度小委員会

ポリシーミックスによる政策パッケージ  
モニタリング等の基盤メカニズムの構築

以上の2点を中心に検討を行い、具体的な制度案をとりまとめ、地球環境部会に報告すること。

### 3. 今後のスケジュール

平成13年夏	中間報告
平成13年中	最終報告

## 各小委員会等の連携関係

